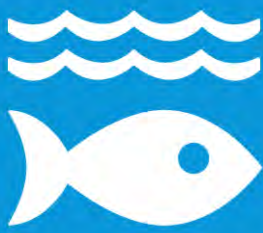


14 海の豊かさを 守ろう



Goal 14 海の豊かさを守ろう

LIFE BELOW WATER

●この目標(Goal)の解説

目標14「海の豊かさを守ろう」は目標15と並び、人間社会が依存する自然の恵みと生態系に関する目標です。海洋への悪影響をなくし、健全な状態に保全し、そして得られる自然資源を持続可能な形で利用し、利用を巡って得られる利益を公正・衡平に配分すること、そのための国際社会の仕組みを強化することがターゲットに盛り込まれています。

「海洋ごみ問題」の中でもプラスチック問題は近年注目を集め、日本でもレジ袋規制やプラスチックストローの自主停止や代替製品の使用などに取り組み始めました。しかし、海洋排出量の推計として合成繊維(35%)、自動車のタイヤ(24%)が、都市ごみ(24%)を上回っており、幅広い分野で脱プラ・資源循環の対策が求められます。

「海洋酸性化」(大気中のCO₂濃度が高まり海に吸収され、弱アルカリ性である海水が酸性化している現象)も問題となっています。温暖化対策であるCO₂削減がこの目標達成にも直結します。

漁業の面では「違法・無報告・無規制」であるものが総漁獲量の最大33%に該当するとされており、海洋資源管理の国際的な監視の強化が必要です。また、合法的な水産物が「持続可能な水産物」とも限らないため、自然資源管理の質や養殖などの漁業技術も高める必要があります。

海ごみ問題や温暖化対策等、様々なアプローチで市民や企業もこの目標達成に貢献できます。MSCやASCという持続可能な海産物を認証する仕組みもあり、消費者の選択次第で持続可能な魚市場の促進に貢献できます。



●大学生協での実践事例



新潟大学生協、新潟県立大学生協、
新潟青陵大学・短期大学生協

海はともだち

3大学のキャンパス付近の海(新潟県五十嵐浜)を約100人の学生が清掃する取り組みです。この取り組みを通して地域社会に貢献し、環境問題への意識を持つものとなっています。

当日は、自分たちが普段使っている海を掃除してきれいにし、そのきれいにした海で交流する取り組みとなっています。



九州大学生協 環境にマイクロプラスチックを 排出しにくい事業

レジ袋を有料化(2円/枚)したり、オリジナルのエコバッグを作成したり、スプーンもプラスチック製から木製に変更したりなど、なるべくプラスチックを利用せずに事業に取り組めるように工夫している取り組みです。

レジ袋有料化に際しては、その価格を理事会の場で様々な階層の理事で協議することで決定しました。プラスチック削減を促すために、レジ袋を購入しない組合員にはポイント還元を実施しました。



●この目標に対して私たちができること

👉私たちができること/自分の大学・大学生協でできることを考えてみよう!